



医療法人 ア ス ム ス

〒323-0014 小山市大字喜沢1475番地328 TEL0285(24)6565/<http://www5.ocn.ne.jp/~kiboukai/>

地域包括ケアシステムの構築を目指して

～地域連携と多職種協働の推進～

平成24年度 在宅医療連携拠点事業



activities supporting medicine :systematic services

おやま城北クリニック(栃木県小山市)



蔵の街診療所(栃木県栃木市)

医療・介護専門職を超えた多機能施設連携モデル



生きいき診療所(茨城県結城市)



地 域 連 携

おやま城北クリニック(小山市)と蔵の街診療所(栃木市)の2か所の診療所を事業主体として拠点事業を展開。それぞれの市で地域連携のためのアウトリーチを行い、多職種連携の勉強会を開催してる。

◆小山市との連携◆

- ・在宅医療連携拠点事業について説明させていただき事業への協力をお願いする。
- ・小山市の地域医療連携の在り方について検討する「小山地域医療連携検討会議」にオブザーバーとして出席
- ・2012年9月9日に開催したフォーラムに指定発言コメンテーターとして、小山市役所担当者に登壇していただき、小山市の考えをお話いただいた。
- ・災害時の対応などをテーマに、市役所の関係部署との話し合いを行っている。

◆栃木市との連携◆

栃木市役所は既に「社会福祉推進委員会」を設置するなど高齢者福祉にも力をいれている市である。

下都賀郡市医師会も在宅医療の推進に力を入れ「在宅医療推進委員会」を開催していた。今年度、その会を拠点事業に位置付け「栃木市地域包括ケア推進の懇話会(仮称)」準備世話人会を立ち上げ、行政も含めて地域包括ケアについて話し合いを重ねている。

多職種連携

- 在宅ケアネットワーク栃木
- 蔵の街コミュニティケア研究会（栃木市）

◆在宅ケアネットワーク栃木◆

- 在宅医療に熱心な医師5名が発起人となり、1996年に発足。
- 現在は、8名の世話人によって運営
- 毎年2月11日にシンポジウム開催

◆第17回 在宅ケアネットワーク栃木(2013年2月11日)

メインテーマ:在宅への流れ～栃木県の今、そして今後～

基調講演Ⅰ:「在宅ケア 栃木県の現状と可能性
～長期連載『終章を生きる』を取材して～」
山崎一洋さん 下野新聞社記者 2025年問題取材班

基調講演Ⅱ:「在宅ケアのつながる力！」
秋山正子さん 白十字訪問看護ステーション

シンポジウム:「栃木県の今後、在宅医療・在宅ケアの先進県を目指して！」

シンポジスト:栃木県健康福祉部保健福祉課・栃木県医師会副会長・
栃木県看護協会会長・とちぎケアマネジャー協会副会長・
栃木県ホームヘルパー協議会会長・NHO栃木病院歯科口腔外科・
栃木県薬剤師会副会長、栃木県立がんセンター緩和医療部医師

→8職種が登壇。それぞれの役割・立場について発表

◆蔵の街コミュニティ研究会◆

- ・2000年4月発足

- ・発起人は・・・

医師、薬剤師、社会福祉士（在宅介護相談員）、保健師、
介護福祉専門学校講師、民間介護事業者、工務店経営者（住宅改修の取り扱い）、介護保険担当行政官



多職種連携
リーダーは薬剤師

栃木市 市民主導型 ネットワーク活動

◆設立趣旨◆

在宅介護を支えるため、医師、看護師、薬剤師などの専門職だけでなく、地域に暮らす全ての人々全体の介護力を高め、「幸せに生きる」コミュニティの実現を目指す。

◆活動実績及び会員集◆

- ・ 定例会開催 72回(2000年4月～2012年10月)
- ・ 会員数300名以上(発足時 約40)
- ・ 1回の定例会参加人数、約20名～70名
- ・ 懇親会参加人数、約15名～20名
- ・ 会員の分布…栃木市、小山市、結城市他、多くの地域に及ぶ

在宅ケアネットワーク栃木、蔵の街コミュニティケア研究会の活動から見えてくること

- 多職種間の交流を深め、異なる職種の職能を理解し・言語を知り・精神文化にふれることができる。
- 理念や目標を共有することができ、それぞれの役割が見えてくる。
- 質の高い利用者本位のケアの提供につながる。
- チームとして多角的・多面的に、利用者とかかわることができる。

啓 発 活 動

暮らしの場での療養、暮らしの場での看取りは「文化」であるとの視点で、市民啓発活動を重視している。専門職の学習理解の場の提供と合わせ、市民向けの啓発活動に取り組んでいる。

◆市民フォーラム開催◆

2012年9月9日 地域包括ケアシステムを考える～住み慣れたわが家で最期まで～
基調講演 石飛 幸三先生 「口から食べられなくなったらどうしますか」
シンポジウム 「つむぎ、つなぎ、つながる医療をはぐくむ」

2012年11月3日 地域包括ケアシステムを考える
基調講演 田城 孝雄先生 「今、なぜ在宅医療なのか？」
シンポジウム 「地域包括ケア時代」

2013年2月11日 第17回在宅ケアネットワーク栃木フォーラム共催

2013年2月24日 栃木県医師会・医療法人アスミス共催在宅医療に関するフォーラム
基調講演 飯島 勝矢 先生 「超高齢社会を生きる 在宅への期待」
特別講演 玉木 朝子 先生 「衆議院議員として取り組んだ難病対策と今後の課題」

◆メディアの活用◆

市民啓発にはメディアの力は大きいと考えます

- ・下野新聞や読売新聞など、在宅医療に関する記事掲載に際して取材協力
- ・小山テレビ 2012年9月9日開催のフォーラムを録画放送
- ・NHK 在宅医療に関する情報提供
- ・とちぎテレビの県広報番組で栃木県医師会とアスムスの在宅医療の取りくみが紹介される。
「週刊とちぎ元気通信・とちぎの在宅医療
～自分らしい医療を受ける～」

→メディアで在宅医療・療養が報じられることで、
市民が自分らしい生き方を考えるきっかけづくりになる

復興枠

- ◆小山市の関係部署と連携し、「災害時の医療や介護の対応」などの打ち合わせなどが進んでいる。
- ◆災害に備えて衛星電話、発電機、医療機器等の購入
- ◆災害時のマニュアル作成準備
- ◆陸前高田市で災害時の医療機関の対応や問題点など聞き取り調査。災害時に避難所などで、在宅医療のノウハウをどのように応用していけるのかプロトコールを検討中

栃木県医師会との連携

県内のもう1つの拠点事業者である栃木県医師会と連携し活動している。

- ◆ 栃木県医師会は2012年12月に栃木県在宅療養支援診療所・病院連絡会を設立。
- ◆ 栃木県医師会前原副会長が看護協会訪問看護ステーションと連携し、「在宅療養支援者の会(みぶの会)」で定期的に勉強会を実施している。
- ◆ 医師会との連携は重要だと考えており、常に連絡、協力し合い、県域全体を踏まえて拠点事業を推進している。
- ◆ 2013年2月24日は、栃木県医師会との共催で、在宅医療に関するフォーラムを開催する。

まとめと今後の課題

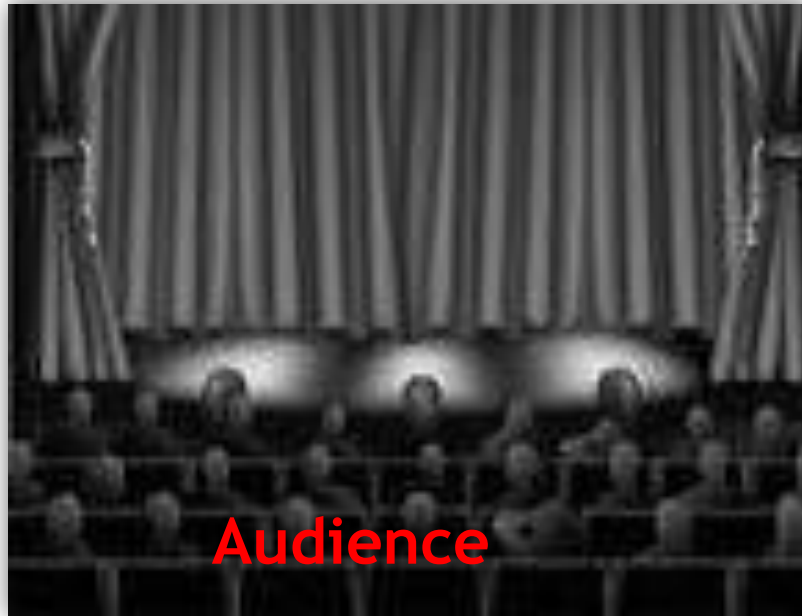
- 自治体、医師会、職能団体と「顔の見える」関係を構築し、信頼関係を蓄積する。



点と点のつながりから面へのつながりへ

- 小山市では行政の役割を含め専門職の連携をより深めていく必要がある。
- 栃木市では行政を含めて様々な連携があり、今後 はどのように市民を取り込んで在宅医療を推進していくかが課題
- 多職種連携を強化し、質の高い在宅ケアの提供につなげる
- 利用者・市民も含め、行政・医師会、多職種協働 で、よりよりチーム医療を展開 するためのモデル作りをしていく

チーム医療を
クラシックコンサートにたとえると・・・



Composer



感動の共有

Player

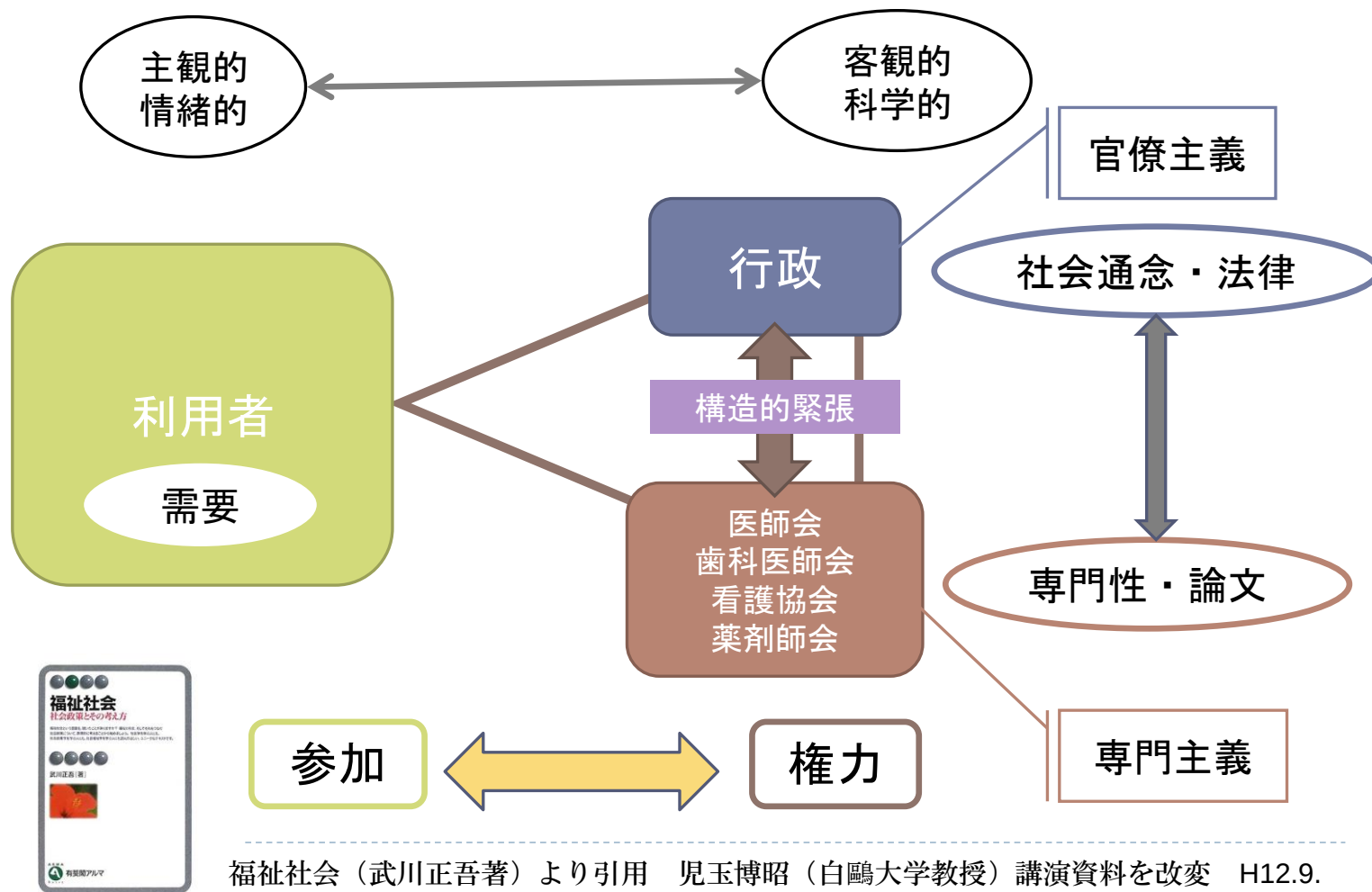


Conductor

Orchestra = Team ?

Composer/Orchestra/Audience
= Team

地域包括ケアにおける行政・専門職・利用者の関係



◆在宅医療の普及・推進の指数は最期を「どのように生きるか」の選択肢として、生活の場を選ぶ人の数が増えることだと考える。高齢者が自宅で最期を迎えることがあたりまえだった30数年前のように、これからも希望すれば生活の場で最期まで過ごすことができる文化としての在宅医療、すなわち利用者と専門職の枠を超えて、知識と経験と感動を共有し、在宅療養に対する市民の意識改革を支援し、住み慣れた我が家で最期まで暮らせるコミュニティの構築に力を注いでいきたい。



地域に文化をつくる